

通し番号	5053
------	------

分類番号	R02-24-15-02
------	--------------

三浦半島地域の輪作体系に導入できる夏季のサツマイモ栽培

[要約] サツマイモを4月下旬から6月上旬に定植すると4か月程度で収穫できる。ダイコンやキャベツの秋冬作を2作栽培するには、サツマイモを4月下旬までに定植し、8月下旬までに収穫する。キャベツ1作の場合はサツマイモを6月上旬までに定植し、11月上旬までに収穫する。

神奈川県農業技術センター・三浦半島地区事務所

連絡先 046-888-3385

[背景・ねらい]

三浦半島地域では、主に夏季にウリ科野菜、冬季にアブラナ科野菜が作付けられているが、市況の低迷や生産者の高齢化などから、夏季の作付けが減少しており、地域では緑肥や代替作物の導入を検討している。そこで、省力的な栽培と生産物として出荷販売が可能なヒルガオ科のサツマイモを対象に、輪作体系への導入可能性を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 サツマイモは、4月下旬から6月上旬に定植すると、定植後4か月程度で十分な収量を確保できる。品種は収量性が高い「シルクスweet」や「安納芋系」が適する(図1)。
- 2 サツマイモを4月下旬までに定植し、8月下旬までに収穫すれば、ダイコンとキャベツの秋冬作を2作栽培できる(図2)。その場合、ダイコンーキャベツの2作では、ダイコンは9月中旬播種、11月下旬収穫、キャベツは10月中下旬播種、12月中旬から1月上旬定植で4月上中旬収穫となる(表1、2)。キャベツ2作では、1作目が8月中旬播種、9月中旬定植で12月下旬収穫、2作目が10月下旬播種、1月上旬定植で4月中旬収穫となる(表1、2)。
- 3 サツマイモを6月上旬までに定植し、11月上旬までに収穫すれば、秋冬作としてキャベツ1作が栽培できる(図2)。その場合、キャベツは10月中下旬播種、11月中旬から1月上旬定植で3月下旬から4月中旬収穫となる(表1、2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 サツマイモは、市販の購入苗を使用し、無施肥で栽培した。
- 2 キャベツ、ダイコンの施肥は、神奈川県作物別施肥基準により実施した。
- 3 サツマイモの栽培により、キタネグサレセンチュウが増加する可能性があるため、ダイコンの栽培前に土壌消毒が必要となる。
- 4 収穫後のサツマイモを貯蔵する施設が必要となる。

[具体的データ]

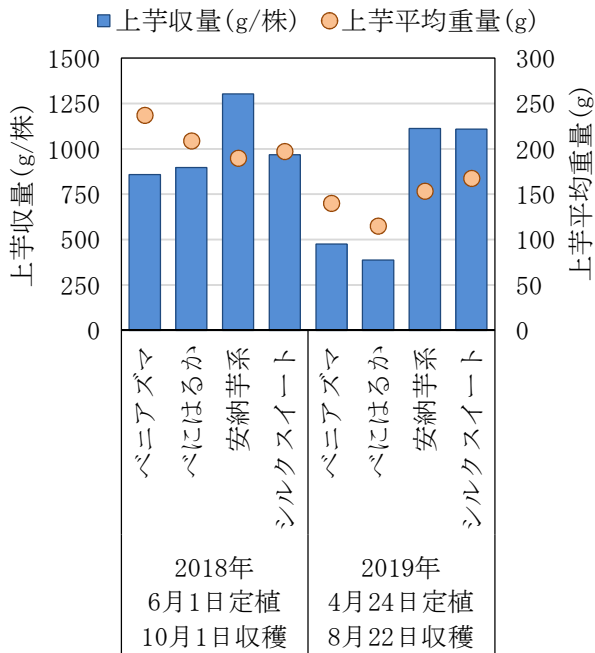


図1 各品種の上芋収量と平均重量^z

z: 2018年は各品種8株、2019年は各品種20株の平均値、上芋は重量が50g以上の芋

表1 サツマイモ栽培後の圃場で栽培したダイコンの収穫時特性^z

年度	播種日	調査日	根重 (g)	根長 (cm)	根径 (cm)	葉長 (cm)
2019	9/17	11/25	1,119	33.3	7.3	44.2
2020	9/14	11/19	824	32.7	6.2	38.4

z: 各区20株、2反復で調査した、品種は‘福誉’

表2 各作物栽培後の圃場で栽培したキャベツの収穫時重量^z

年度	播種日	定植日	調査日	前作	結球重(g)
2018	10/18	11/20	3/25	サツマイモ	1,177
2019	8/27	9/27	1/24	サツマイモ	1,549
	8/20	9/17	12/24	サツマイモ	1,249
2020	10/19	12/16	4/5	ダイコン	1,345
	10/23	1/7	4/15	キャベツ	1,363

z: 2018年度は20株、4反復の合計80株で調査、品種は‘金系201号’、2019年度は20株、2か所の合計40株で調査、品種は‘浜岬’、2020年度の12月24日の調査は20株、2反復の合計40株で実施、品種は‘浜岬’、4月5日及び4月15日の調査は各区20株、2か所の計40株で実施、品種は‘金系201号’



●: 播種、▲: 定植、×: 土壌消毒、■: 収穫時期

図2 輪作体系の作型図

[資料名] 平成30年度～令和2年度試験研究成績書（三浦）
 [研究課題名] 輪作体系におけるサツマイモ生産技術の確立
 [研究期間] 2018（平成30）年度～2020（令和2）年度
 [研究者担当名] 太田和宏